

時代の殺人鬼、櫻津誠（緑形孝）は全国最重要指名手配となりながらも浜松では京都大学教授、千葉では弁護士として不敵にも千葉地裁に現れ、見事な変装で行きずりの人々から巧みに金を巻き上げる。恰かな知能犯でもある彼は、船上からの投身自殺を偽装するなど捜査陣を翻弄し続ける。また、無類の女好きで、その逮捕前からの息詰まる78日間の逃避行でも彼の周りから女の影が消える事はなかった。

# ムービー・エッセイ

これだけは見逃せない邦画・洋画セレクション

## 復讐するは我にあり。



### 淵辺 俊一

この映画には実在のモデルがいる。その名は西口彰、1968年その凶暴性と特異な行動で日本中を轟かせた男である。彼は死刑執行を待つ獄中で「罪は悔より深し」と題した手記をつけており、その中で「犯罪の裏に女あり」と言うが、私の場合は裏のみならず、表も横も上下とも、と付け足して過言ではない」とうそぶいている。

この映画の大きな見所は、「人間の業」とも言うべき人の心の底知れぬ深遠をかい

ま見せてくれるその深みにある。検察側から「史上最高の黒い金メダルチャンピオン」と太鼓判を押され、裁判長に「悪魔の申し子」とまで言われた。比類なき極悪非道ぶりが何によってもたらされたのか？ また、この男によって究極の状態で追い込まれた男女が何を試されたのか。あぶり出されたのか？ 17世紀フランスの思想家パスカルは、その主著「パンセ」の中で「人は神の名のもとに平気で残虐な行為をする」と述べているが、

換金する行為を許す神などいるはずはない。人間性ひのかすかな期待も裏切る彼の非道ぶりは我々の理解をはるかに超えている。ここまでやる彼の大義とは？ 神への徹底した嘲しめ。だったのではないのか？ 映画は、それを父と父親鶴雄（三國連太郎）との父子関係で暗示している。鶴の父親は敬虔なクリスチャンであり、鶴にも信仰を強いているが、鶴は少年のある日、その父親が衆人環視の

中、官憲に屈して生活の糧である漁船を取上げられる際の卑屈で無様な姿を目撃する。「父ちゃんは何故したい」と落胆する少年の心に、神への不信が芽生えたとしても不思議ではない。また、父親と鶴の妻加津子（信貴美津子）との不倫への疑惑も、それに拍車をかけたのではないのか。「神様ごたる人が、息子の嫁のケツのほくらば拝んどって、ほんのこっこつ、めしはケダモノじゃない」という鶴のセリフにも、そのケダモノすらも圧倒しようとした非道の片鱗が見て取れる。

また、加津子が、最後のシーンで義父に「敵もよう言うちよりましたが、おとうさんはやっぱりズルか人ですがね、バツツ、わたしゃそのズルかこが好きですたい」と真顔で言うそのズルさとは権力に相し、加津子の誘惑にも実質敗北し罵にもなりながら、それを決して認めようと思わず信仰も捨てようとは思わない良いとこ取りのズルさであり、人間の根元的な原罪とも言うべき弱さを指しているのではなからうか？ その弱さを息子の嫁は許さず、嫁の加津子は許したという点で、この作品は宗教的な視点を得ることも成功している。

この映画は、直木賞を受賞した作家佐木隆三のノンフィクション小説を名匠、今村昌平監督が1979年に映画化した作品で、精力拳、三國連太郎、信貴美津子、小川真由美など名優の冴え渡る旬の時を見事に捉えた、かつての日本映画では見ることの出来ない骨太の傑作である。惜しむらくは映倫のカットが恨めしい。いつの日か完全版が見られる日を祈りたい。

# RIKEN (有)リケンオキナワ

Since 2003 不動産のことなら 沖縄県知事(1)第3570号  
〒900-0006 那覇市おもろまち4丁目7番18号(リケンオキナワビル5F)  
TEL: (098) 941-5650 FAX: (098) 941-5651  
e-mail: riken-okinawa@bird.ocn.ne.jp

- 不動産・土地・建物・アパート・マンション即買取り致します
- (土地・建物・車用地)売買・斡旋
- 賃貸管理業務
- 駐車場企画管理業務
- 建物企画管理業務
- 競売手続代行業務
- 保険事業部損害保険代理店

